

戦後労働史におけるオーラルヒストリー・ アーカイブ化の基礎的研究

梅崎, 修 / UMEZAKI, Osamu

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費助成事業 研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2015-06

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2014

課題番号：23330115

研究課題名(和文)戦後労働史におけるオーラルヒストリー・アーカイブ化の基礎的研究

研究課題名(英文)Basic Study on Archiving Oral History in Post-War Labor History

研究代表者

梅崎 修(UMEZAKI, Osamu)

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：90366831

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、労働史オーラルヒストリーの未調査の確認と新調査、方法の開発、史料館との連携を行った。第一に、過去の労働史オーラルヒストリーをリスト化した。また、新しい調査を実施し、そのすべてを冊子化した。第二に、米国で7か所、英国で数カ所のオーラルヒストリー拠点を訪問・交流し、その視察報告を作成した。また、学会にてオーラルヒストリーの方法論や教育に関する報告を行った。特にオーラルヒストリーの映像の扱い方について議論を深めた。第三に、大阪エルライブラリーにて労働史オーラルヒストリー・アーカイブというWEBサイトを作成した。現在著作権の許諾中であるが、2015年度中に公開予定である。

研究成果の概要(英文)：In this study, we verified un-studied areas and new study in the oral labor history, developed its method and established the cooperation with the historical museums. First, we created a list of the oral history of labor in the past. We also conducted new researches and created booklets of all of them. Secondly, we visited 7 places in the U.S., and several places in the U.K. that were hubs of oral history, and had exchanges to create the visit report. We also reported at some conferences on the methodology and education of oral history. Particularly, we deepened the discussion on how to handle the video images of the oral history. Thirdly, at Osaka Labor Archive, we created a website called Labor History Oral History Archive. Currently, it is clarifying the copyright matters, but it is scheduled to open to public within year 2015.

研究分野：労働史

キーワード：労働史 オーラルヒストリー 人事労務管理 労使関係

1. 研究開始当初の背景

戦後労働史は、実態調査や文書史料の蓄積によって発展してきた。しかし現在、労働研究における史料は、一般公開が困難で、なおかつ史料自体の破棄が起こっている。連合成立以前のナショナルセンターの史料は労働政策研究・研修機構（総評や中立労連）や友愛労働歴史館（同盟）が保存しているが、それらは公式文書が中心であり、多くの非公式の第一次史料は個人が保存している可能性が高い。さらに、産別労働組合の統合が進む現在では、事務所統合による史料の廃棄が行われている。

文書史料の不足を補い、さらに新しい研究テーマを得るためにも、オーラルヒストリー・メソッドが注目を浴びている。この手法は、御厨（2002）『オーラルヒストリー』や大原社会問題研究所編（2009）『人文・社会学研究とオーラルヒストリー』でも紹介されたように、政治史や社会史の分野で発展してきた。オーラルヒストリーは、(1) 公式文書には現れない複数のアクターによる集合的意思決定や交渉を扱う政治史の利用方法は制度導入や労使関係の分析には優れているし、(2) 階級文化や組織文化を扱う社会史の利用方法は労働者文化の分析に適している。

我々は、戦後労働史のオーラルヒストリーを手がけ（ここ5年間に行われたオーラルヒストリーは業績一覧を参照）、既に300回を超える史料群を作成し、その一部を梅崎（2009）で紹介した。

2. 研究の目的

本プロジェクトでは、(1) オーラルヒストリーの史料群を追加的に拡充させながら、利用者に向けた保存・整理を検討する。さらに、研究者ネットワークを構築し、史料を利用した論文作成を行う。(2) オーラルヒストリーのアーカイブ化が進んでいる海外史料館や海外学会・協会を調査し、国内における労働史・オーラルヒストリー・アーカイブの先例を作りたい。(3) 国内外において史料の利用者を増やすためにも、資料館と協力しながら語り(narrative)の利点を活かした公開方法を検討する。

3. 研究の方法

オーラルヒストリーのアーカイブ化は試行錯誤の連続になる。アーカイブの作成後に、利用者にとっての「使い難さ」が発見されることが想定される。従って本研究では、早い段階（2年目）から試作版を作成し、利用者の反応を考慮しながら徐々に改訂しながらアーカイブ化を進める。また、その試作版アーカイブの充実と共にオーラルヒストリーを利用した研究論文の作成も行う。さらに海外のオーラルヒストリー・センターを訪問し、アーカイブのメソッドを習得し、アーカイブ構築に活かす。その上で、国際的なネットワークも構築する。

4. 研究成果

本研究では、労働史オーラルヒストリーの未調査の確認と新調査、方法の開発、史料館との連携を行った。第一に、過去の労働史オーラルヒストリーをリスト化した。また、新しい調査を実施し、そのすべてを冊子化した。第二に、米国で7か所、英国で数カ所のオーラルヒストリー拠点を訪問・交流し、その視察報告を作成した。また、学会にてオーラルヒストリーの方法論や教育に関する報告を行った。特にオーラルヒストリーの映像の扱い方について議論を深めた。第三に、大阪エルライブラリーにて労働史オーラルヒストリー・アーカイブというWEBサイトを作成した。現在著作権の許諾中であるが、2015年度中に公開予定である。刊行したオーラルヒストリー報告書は以下の通りである。

『崎岡利克オーラル・ヒストリー（元電機連合中央執行委員）』科研費報告書

『加藤昇オーラル・ヒストリー（元電機連合中央執行委員）』科研費報告書

『梅原志朗オーラル・ヒストリー（全日本金属産業労働組合協議会顧問）』科研費報告書

『小栗啓豊オーラルヒストリー（元鉄鋼労連中央執行副委員長）』研究成果報告書

『二宮誠オーラルヒストリー（元UIゼンセン同盟組織局長現東京都支部長）』科研費報告書

『近江絹糸人権争議オーラルヒストリー(1)』科研費報告書

『近江絹糸人権争議オーラルヒストリー(2)中村幸男オーラルヒストリー』科研費報告書

『平沢栄一オーラルヒストリー（元総評全国金属中央本部書記長）』科研費報告書

『藁科満治オーラルヒストリー（元電機労連委員長・連合会長代行）』科研費報告書

『菅井義夫オーラルヒストリー（元全織同盟副会長）』科研費報告書

『石原利昭氏オーラルヒストリー（元連合大阪会長・元クボタ労連委員長）』科研費報告書

『全国一般オーラルヒストリー（田島恵一・元委員長、高原壮夫・元副委員長）』科研費報告書

『吉村俊夫オーラルヒストリー（元三菱電機労働組合中央執行委員）』科研費報告書

『芹澤壽良オーラルヒストリー（日本鉄鋼産業労働組合連合会本部書記）』科研費報告書

『労働史・史料研究会オーラルヒストリー(3)』科研費報告書

『横山進オーラルヒストリー（鉄鋼産業労働組合連合会中央執行委員）』科研費報告書

『鉄づくりを支え進展させる技術者』高知短期大学研究叢書2、高知短期大学社会科学会、pp.1-121

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 20 件)

梅崎修、高度成長期鉄鋼産業における人事制度変革の過程分析 - オーラルヒストリー・メソッドによる実地検証の試み、企業研究(中央大学企業研究所) 査読無、第 26 号、2015、71-93

梅崎修、英国におけるオーラルヒストリー(2) - オーラルヒストリー・アーカイブについて、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、第 12 号 No.2、2015、121 - 130

梅崎修、島西智輝、南雲智映、谷合佳代子、下久保恵子、(資料紹介)辻保治コレクション一覧 - 近江絹糸人権争議資料、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、第 12 号、2015、131-141

島西智輝、下久保恵子、谷合佳代子、梅崎修、南雲智映、1950 年代日本の労働運動における文化活動と職場闘争 人権争議前後の近江絹糸労働組合の事例、香川大学経済論叢、査読無、第 87 巻 1-2 号、2014、77-102

田口和雄、梅崎修、WSU Walter P. Reuther Library and Urban Affairs におけるオーラルヒストリー・プロジェクトとアーカイブの現状について、高千穂論叢、査読無、第 48 巻第 3・4 号合併号(共著)、2014、139-162

梅崎修、田口和雄、MATRIX(the Center for Digital Humanities and Social Sciences at Michigan State University) におけるオーラルヒストリー・デジタル・アーカイブの試み、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、Vol.11、2014、279 - 296

島西智輝、下久保恵子、谷合佳代子、梅崎修、南雲智映、大阪社会運動協会所蔵の近江絹糸人権争議資料 辻コレクションについて、大原社会問題研究所雑誌、査読有、第 668 号 2014、63-74

梅崎修、英国におけるオーラルヒストリー(1) - フリーランスのオーラルヒストリアンたちとの出会い、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、第 13 号、2014、123-130

梅崎修、南雲智映、総評全金住友重機械工業支部の活動と組合分裂(2) - 三好一二三氏オーラルヒストリー、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、第 12 号、2014、113-128

森直子、島西智輝、梅崎修、日本的経営技法の海外移転 - アジアにおける日本生産性本部の活動、企業家研究、査読有、第 10 号、2013、1-19

田口和雄・梅崎修、NYU Tamiment Library & Robert F. Wagner Labor Archives におけるオーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化について、高千穂論叢、査読無、第 47 巻第 4 号、2013、97-118

梅崎修、田口和雄、コロンビア大学・CCOH (Columbia Center of Oral History) におけるオーラルヒストリー調査とアーカイブについて、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、Vol.10、2013、319-338

田口和雄・梅崎修、アメリカにおけるオーラルヒストリー・プロジェクトの現状について The New York Public Library for the Performing Arts and the Ellis Island Immigration Museum への調査をもとに、高千穂論叢、査読無、第 48 巻第 1・2 号合併号、2013、311-323

南雲智映、梅崎修、総評全金住友重機械工業支部の活動と組合分裂 - 星加文夫氏・藤井正剛氏オーラルヒストリー、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、第 11 号、2013、91-108

梅崎修、オーラルヒストリーによって何を分析するのか - 労働史における<オーラリティー>の可能性、社会政策、査読無、第 11 号、2012、pp.32-44

青木宏之、オーラルヒストリーによる労働研究への貢献、社会政策、査読無、第 4 巻第 1 号、2012、43-57

鈴木誠、「新職能資格制度」と職務重視型能力主義の再編成 三菱電機の 1978 年人事処遇制度改訂、日本労働研究雑誌、査読有、624、2012、70-87

島西智輝、森直子、梅崎修、高度経済成長期における日本生産性本部の活動 - 相互信頼の労使関係の形成への影響、日本労働研究雑誌、査読有、第 625 号、2012、70-86

梅崎修、田口和雄、Regional Oral History Office (ROHO) のオーラルヒストリー・アーカイブ化について、生涯学習とキャリアデザイン、査読無、Vol.9、2012、75-85

田口和雄・梅崎修、アメリカにおけるオーラルヒストリー・アーカイブ化の現状について - UCLA Center for Oral History Research (COHR) のインタビュー調査をもとに、高千穂論叢、査読無、第 47 巻第 1 号、2012、99-119

〔学会発表〕(計 5 件)

梅崎修「(招待講演)オーラルヒストリーを用いた大学の教育実践」日本オーラルヒス

トリー学会(日本大学文理学部 東京都・世田谷区)2014年9月6日

梅崎修「労働史オーラルヒストリー・アーカイブの試み - 映像化の取り組みと資料の利用可能性を中心に -」社会政策学会春大会(中央大学 東京都・八王子市)2014年6月1日

森直子・島西智輝・梅崎修「日本の経営手法の移転 海外における日本生産性本部の活動」企業家研究フォーラム大会(大阪大学中之島センター 大阪府・大阪市・北区)2012年7月14日

梅崎修「オーラルヒストリーによって何を分析するのか?」社会政策学会(明治学院大学白金キャンパス 東京都・港区)2011年5月22日

青木宏之「オーラル・ヒストリーによる現代史研究への貢献 - 希望額釜石製鉄所調査を中心に」社会政策学会(明治学院大学白金キャンパス 東京都・港区)2011年5月22日

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

梅崎 修 (UMEZAKI, Osamu)
法政大学・キャリアデザイン学部・教授
研究者番号: 90366831

(2) 研究分担者

田口 和雄 (TAGUCHI, Kazuo)
高千穂大学・経営学部・教授
研究者番号: 70407659

青木 宏之 (AOKI, Hiroyuki)
香川大学・経済学部・准教授
研究者番号: 00508723

島西 智輝 (SHIMANISHI, Tomoki)
東洋大学・経済学部・准教授
研究者番号: 70434206

(3) 連携研究者

南雲 智映 (NAGUMO, Chiaki)
東海学園大学・経営学部・准教授

研究者番号: 50445871

鈴木 誠 (SUZUKI, Makoto)
労働政策研究研修機構

谷合 佳代子 (TANIAI, Kayoko)
大阪産業労働資料館(大阪エル・ライブラリー)

金子 良事 (KANEKO, Ryozi)
法政大学・大原社会問題研究所・研究員

間宮 悠紀雄 (MAMIYA, Yukio)
友愛労働歴史館・事務局長